

周波数ひっ迫対策のための国際標準化連絡調整事務 平成23年度継続評価結果

(5点満点)

案件名	実施期間	主な評価コメント	評価
ミリ波・サブミリ波帯等における無線通信技術の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H22-H25	<ul style="list-style-type: none"> ・120GHz帯の技術の研究開発が最も進んでいるとのことだが、それをうまく受け入れられるような手法は日本はいつも不得意なので、その点に力を入れてほしい。 ・WRCでの周波数割当のパイオニアとしての我が国の寄与を示してもらいたい。 ・10Gbpsクラスの超高速通信の必要性を十分強調し、各国の同意が得られるようにする必要がある。 	3.6
海上移動業務VHF帯データ通信方式の国際標準化	H21-H23	<ul style="list-style-type: none"> ・海上移動業務は各国の利害が対立することが多いため、粘り強い活動が求められる。 ・実質的な国際標準化活動が行われており有効に機能している。 ・VHF帯データ通信の利用者ニーズを十分整理して説得力のある提案としている必要がある。 	3.9
Cospas-SarsatへのPLBビーコン制御技術の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H22-H25	<ul style="list-style-type: none"> ・Cospas-Sarsat衛星を介したビーコン利用で、不要なビーコン信号を制御することにより、周波数占有率を低減できる制御技術を国際標準化し、世界的に周波数の有効利用に貢献するもので有用であり、早期の標準化の実現が期待される。 ・裏付けデータを持って標準化会合に臨まれており十分に達成していると評価できる。 ・日本の技術が盛り込まれたビーコン制御技術に関わる文書を入力し、我が国の存在を高め、さらに各国との意見調整が進む状況に進展している。 	4.0
デジタル電波利用における電波雑音の状況に関する国際標準化	H21-H24	<ul style="list-style-type: none"> ・日本のデータを必ず勧告に追加できるように、測定法の確立も含め、より多くの測定を行うこと。 ・国際会議で活動し、技術的に貢献していることが伺えた。 ・電波雑音の標準化への取り組みの重要性は理解できた。 	4.0
700MHz帯等を用いた移動通信技術等の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H21-H23	<ul style="list-style-type: none"> ・23年度以降も継続して行うことが大切。SWG議長を日本がとれたのは良かった。アジア諸国との連携に努めること。 ・引き続き仲間づくりに努め、WRC-12での新議題となるように努力してもらいたい。 ・目標を達成しており、最終年度H23年度の計画も妥当である。 	4.2
IMT-Advancedの無線インターフェイス技術の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H21-H23	<ul style="list-style-type: none"> ・極めてアクティブに活動されており、成果も大きいことから十分に目標を達成していると評価できる。 ・IMT-Advanced勧告の採択に向けて引き続き頑張ってもらいたい。 ・特に、アジア諸国との連携をこれまでと同様に努めてもらいたい。 	4.2